

水田たより 2月号

令和8年2月2日

JA みえきた

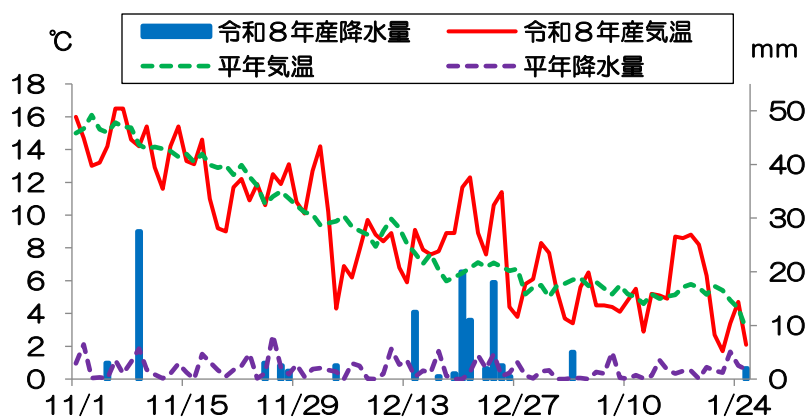
桑名地域農業改良普及センター

麦

気象状況と生育状況

寒暖差が大きく、播種時期や苗立ちによって生育に差が見られています。11 月上中旬播種の基準田はやや早めの生育となっています。一方で気象庁の1 か月予報（1 月 22 日発表）では、向こう 1 か月は平年と比べ平均気温は低く、降水量は少ない予報のため、今後の生育は遅れると予想されます。生育ステージに注意し追肥時期を判断してください。

< 気象状況 >



R7/11/1～R8/1/25の概況

◇積算気温
773℃(平年770℃)

◇積算降水量
115mm(平年 154mm)

◇積算日照時間
495時間(平年 461時間)

< 観測地点 >

北緯 35 度 3.0 分 東経 136 度 41.6 分

（桑名市大字江場字正金縄）※気象庁 HP より

< 基準田の生育状況 >

地域	品種	播種日	過去 3 か年との比較（1 月中旬時点）			
			茎数	草丈	葉齢	葉色
桑名・木曽岬	小麦「さとのそら」	11/10	やや多	やや大	やや早	やや薄
いなべ・東員	小麦「あやひかり」	11/7	少	やや小	やや早	薄
	大麦「ファイバースノウ」	11/20	(84 本/m)	(9.4cm)	(3.5 葉)	(SPAD 値 44)

※ファイバースノウは播種日が過去 3 か年と大きく異なるため 1 月 13 日調査時の実データを記載。

麦

幼穂の形成を確認して追肥！

麦は 2 月中下旬頃に幼穂の形成を始めます。この時期の生育は穂数や 1 穂あたり粒数に大きく影響します。そのため、窒素が不足しないよう幼穂形成期に追肥を行うことが重要です。

< 幼穂の確認方法 >

- ① ほ場内で生育が平均的な株を選び、その株の中から最も丈の長い茎（主茎）を根元から引き抜きます。
- ② カッターなどを使って引き抜いた茎を根元から縦に割ります。もしくは葉を剥いて幼穂を露出させます。
- ③ 根元の中心部にある、黄色く小さな円錐状のものが幼穂です。この幼穂が 1～2mm の大きさに育った頃が、幼穂形成期です。



写真1 縦に割る様子



写真2 葉を剥く様子

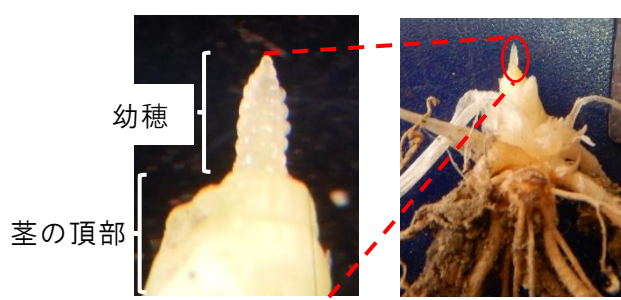


写真3 1～2mmの幼穂

幼穂は輪郭が波状であることが特徴です。

麦

湿害からの回復に向けた追肥

麦は湿害を受けると、根が傷み養分を十分に吸収できなくなります。特に幼穂形成期では麦の生育が旺盛なため、湿害の影響が大きくなります。令和6年産では、2月の降水量が多く湿害が多発したことにより、くず麦が増加しました。

湿害後は、根が活動を再開したタイミングで窒素を供給することで、生育の回復を助けることが期待できます。一方、水が引いておらず根が回復していない状態で追肥をしても、十分に窒素を吸収できないばかりか、根がより傷む原因となります。ほ場の水が引いて、新しい葉が展開してきたら追肥しましょう



湿害を受けたほ場

湿害の症状の特徴としては、①生育ムラがあり、②黄色い葉（特に下葉）が目立つことが挙げられます。

その他

獣害対策

防護柵（ワイヤーメッシュ柵、電気柵）を設置されている地域では、獣害が発生する前に柵を点検し、適切な補修・補強を行ってください。獣害対策でお困りごとがありましたら、普及センターへご相談ください。

＜ワイヤーメッシュ柵の補修・補強＞



イノシシの柵持ち上げ対策に直管パイプや竹等で柵下部の補強



溶接部が損傷したら、針金でタスキ掛け補修

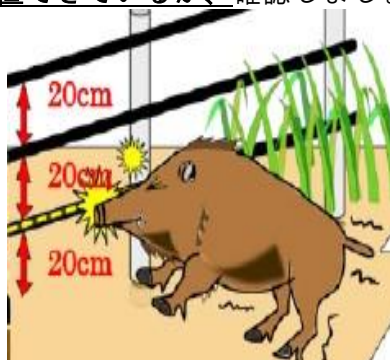


トタン等で中の農作物が見えないので侵入意欲減退

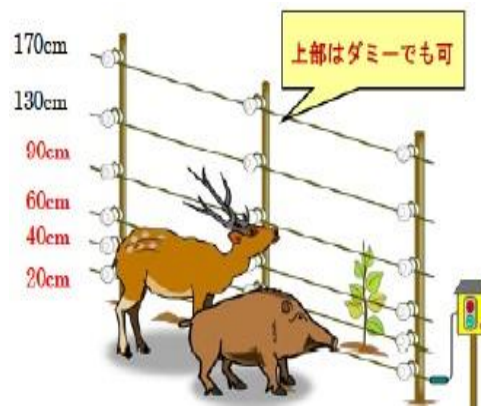
＜電気柵の維持管理＞正しく設置できているか、確認しましょう。



草刈などで漏電を防止し、電圧 5,000 v 以上になるように



イノシシ対策用電気柵の電線の高さは、地面から 20 cm 間隔の 3 段



イノシシ・シカ対策用電気柵の電線の高さは、地面から 20-40-60-90-130-170 cm

図は「ワイヤーメッシュ柵設置・点検マニュアル」「電気柵設置・点検マニュアル」（いなべ市獣害対策課、桑名農政事務所）から引用

過去の水田たよりは桑名地域農業改良普及センターのホームページでご確認いただけます。「桑名普及」でご検索ください。



桑名普及

検索